

第4回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時 : 平成27年6月3日(水) 16:00~17:30

2. 場所 : 内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員 : 中須賀部会長、片岡部会長代理、青木委員、久保委員、白坂委員、仁藤委員、山川委員

(2) 政府側 : 小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、森宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 宇宙安全保障に関する動向と課題

資料1及び資料2に基づき、内閣衛星情報センターより、情報収集衛星に関する説明が行われた。また、資料3に基づき、内閣官房国家安全保障局より、海洋状況把握(MDA)に関する説明が行われた。これらの説明及び宇宙安全保障部会がフォローアップしていく項目全体について、委員から以下のような意見等があった。(以下、質問・意見、説明者回答)

衛星だけではなく、無人機等も活用したりリアルタイムの情報収集が進みつつあるが、このような全体のシステムの中で、情報収集衛星等がどのような位置づけとなるのか、検討を深化させて欲しい。

情報収集衛星の寿命の延長とは、具体的にどのような取組を行うのか。設計寿命の変更ではなく、運用期間の見直し等の対応を考えている。

海洋状況把握(MDA)について、安全保障の観点から、どのような情報を取得することが必要なのか等のニーズの確認が大切である。

海洋状況把握(MDA)を行うに当たって、衛星以外のデータとの連携も考えているのか。まず、現在どこにどのような海洋関連データが存在しているかの把握等を進めているところである。

本日の議論も踏まえ、宇宙安全保障部会が担当している項目すべてについて、宇宙基本計画に基づき着実に実施することを関係府省に求めるとともに、参考資料2にある項目を中心に更なる深掘りを求めていくことが部会として了承された。

(2) 工程表改訂に向けた中間とりまとめについて

事務局からの説明を踏まえ、委員から以下のような意見等があった。(以下、意見)

宇宙システム全体の抗たん性強化に関して、宇宙システムの脆弱性への対応手段は、宇宙だけではなく、地上で行うこともあり得る等、多くの検討課題がある。

宇宙システム全体の抗たん性を強化する方策の一案として、対応が必要となった場合に備えてのマニュアルの作成や、マニュアルに基づく演習を行う等の取組も考えられる。

即応型の小型衛星等に関する最初のステップとして、我が国として何に取り組むのかといった基本方針の策定等が考えられるのではないか。

以 上